

# ＜北海道熊研究会報＞

第1号 2013年 1月 25日

＜今号は札幌圏での熊問題特集の「第1号」です＞  
ご意見ご連絡は下記へどうぞ

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭 e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

事務局長 PETER NICHOLS ピーターニコルス氏

## 「北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association の活動目的

熊の実像について調査研究し、熊による人畜及びその他経済的被害を予防しつつ、人と熊が棲み分けた状態で共存を図り、狩猟以外では熊を殺さない社会の形成を図るための提言と啓蒙活動を行う。

この考えの根底は、この大地は総ての生き物の共有物であり、生物間での食物連鎖の宿命と疾病原因生物以外については、この地球上に生を受けたものは生有る限りお互いの存在を容認しようと言う生物倫理(生物の一員として人が為すべき正しき道)に基づく理念による。

## [I] 熊から見た札幌圏の自然

札幌圏では、札幌市の西部には山が連なって見えるが、あの山地は標高が100 m台から1,500 m弱の山が連なっていて、その殆ど全域が樹林地になっている。その樹林地の幅はどのくらいあるかと言うと、樹林地の東端は市街地に接するいわゆる円山(225m)や藻岩山(536.8m)の東端で、そこから西へ向かって36kmから40kmの幅でずっと樹林地が続いている。そして、その樹林地の西側の大部分が熊の生息地(熊が長期に利用している地所)になっていて、その東側の大部分が熊の出没地(熊が時に利用する地所)になっている。円山や藻岩山の樹林地帯も出没地である。札幌市の西部地域の環境を熊との関係で言うと、そういう地理的環境になっている。

## [II] 札幌圏の熊の生息地の変遷

① 1970年代末迄の熊の生息地は、銭函川上流域～手稲山～源八の沢上流部(手稲福井)～砥石山トイヤマ～島松山(506m)を結んだ線の西側であった。熊の捕殺もこの奥地であった。里山(人が日常的に立ち入る山林、山林公園も含む)での熊の出没は極めて稀な事象で、熊の目撃や遭遇は、1978年以前は、奥山(人が日常的に入らない山林)でのみの事象であった。現在の生息圏もほぼこの地所辺りが東端であろうと看取しているが、更なる検証をしようと考えている。

② 1984年時点の生息地(熊が長期に利用している地所)は、銭函川上流域～奥手稲山～迷沢山～百松沢山～砥石山トシヤを結んだ線の西側である。里山での出沒は極めて稀な事象であった(門崎・犬飼著「ヒグマ」2000年北海道新聞社刊に記載有り)。1986年～2010年の熊の捕殺は稀となった。

③ 1993年以前は熊の出沒は、奥山と里山の境界辺りのみで、里山への出沒は稀であった。

④ 1994年以降、里山(公園等)に時々出沒が見られ始めた。

⑤ 1999年と2000年の両年は、熊の出沒件数が年間5件以内であったが、2001年以降は増加し10件を越えるようになった。

⑥ 2011年以降は、熊が夜市街地に出沒するようになった。この出沒熊は母から自立させられた満1歳代ないし2歳代の個体(2歳代は西区西野のみ)である。

この出沒原因は①初めて見る住宅地に好奇心を抱き、確認学習のために出沒しているのである。他に札幌圏では②果樹畑作物を食べるための出沒と③移動のため道路を横断したりの出沒とがあるが、この場合は年齢に関係無い。

・札幌圏での出沒熊はいずれも、人に危害を与えていない。

・札幌圏での1970年以降の、熊による人身事故は、2001年5月6日山菜採りで、定山溪の国有林で襲われ殺された「工藤憲三さん53歳」の事件1件だけである。この熊は8歳3ヶ月令の雄熊であった。(事件の顛末は、「森林野生生物研究会誌28号2002年」に、門崎允昭が記載済みである)。

### [ III ] 札幌市への要望

① 熊が出沒した場合、如何なる熊が何の為に出沒しているのか、的確に見極め殺さない方法で対処されたい。出沒する熊には必ず目的がある。

一昨年(2011年)と昨年(2012年)に、南区や西区の住宅地に頻繁に出て来た熊はいずれも満2歳未満の母から自立させられた若熊が、「住宅地が如何なる所か」好奇心で学習に出て来っていたのであった。2歳未満の熊が、人を襲った事例は過去に無い。故に大騒ぎは慎むべきである。

② 「芸術の森の野外美術館」付近に熊が出沒したとして、大騒ぎして昨年も幾度か閉園しているが、解決策として、早期に会場を有刺鉄線柵で囲う策をすべきである(国定滝野すずらん公園での事例がある)。

③ 熊が住宅地や耕地に出て来た場合、一時的にその場所に電気柵を設置し、再出を予防する対策を講ずること。

④ 奥山で熊の毛を取り、DNA鑑定するなどの調査は不要で、市民にも熊にも無益な税の無駄遣いであることを、強く指摘したい。(丁)